

# 森泉荘だより

第 2 号  
S. 62. 12. 1

## 森泉荘だより 第二号発行にあたって

富田 四朗

当施設も開設以来早いもので、四年十カ月経過いたしました。この間、森吉町をはじめ関係機関、各種団体のご指導と、利用者家族のご理解あるご協力により、順調に運営しております。ここに改めてお礼を申しあげます。今施設では入所利用者だけでなく、施設が持っている機能を、在宅福祉の分野にも活用していただくため、次のことを取

り扱っております。

### 一、短期保護事業

これは、家庭で寝たきり老人のお世話をなさっている人（介護者）が一時的に休養したいときや、用事（冠婚葬祭等）等でお世話が難しくなったときに、森泉荘で一週間程度そのお年寄りをお世話する制度です。

### 二、入浴サービス事業

### 三、給食サービス事業

以上三つの事業は、町村役場や、町社会福祉協議会と協議のうえ、進めておりますので、詳しく知りたい方は役場福祉係か社会福祉協議会が当施設にご相談して下さい。

### 四、介護技術講習

家庭で寝たきり老人等のお世話する場合に必要な知識と技術、器具の取り扱い方法等習得するものです。町村社協や婦人団体等の事業に計画されたとき、必要に応じ当施設の職員を派遣するものです。

### 五、家庭との連絡について

よその施設では、利用者の家族会を設け、年二回位会合を開き、利用者の健康状況、生活状況等報告し、家族からの要望や意見を交換し、施設運営に役立てているところもあります。当施設では、まだ組織されておりませんので、この便りで情報を提供する以外に方法がありませんし、限られたページ数で、十分意を尽くせないのが残念です。そこで面会等おいでの際は、ご遠慮なく職員にお尋ねくださるようお願いいたします。

（施設長）

## 利用者作品より

三浦 イト

## 花

花の命は短いけれど  
花一本一本がしっかりと  
一生懸命生きています

美しく目立つ花は 可哀想  
すぐ人々に切られ  
家の中に飾られ  
仲間もいない 一人ぼっち  
暗く寂しい部屋で

それなら  
目立たない花の方がいい  
人に  
踏みつぶされるかも知れないが  
仲間と一緒に明るい空の下で  
おもしろい伸び伸びと  
一生を過ごす

目立つ花は  
可哀想な感じがする

# 防火対策について

森泉荘屋上にサイレン及び非常通報装置設置

庄司 善男

この春、東京の特別養護老人ホームで火災がありました。夜間のことでもあり、死亡者一七名、負傷者二五名という痛ましい犠牲者をたしました。

この火災をきっかけに、社会福祉施設における防災・安全対策を、今一度見直そうとする気運が一層高まっています。

ところで、わが森泉荘はどうでしょう。

① 火災表示機が宿直室と事務室にあり、火災の発生場所が一目で解るようになっていました。

② 廊下・ホールなど、三ヶ所に消火栓が取り付けられている他、消火器も九ヶ所に備え付けられています。

③ 春、秋には利用者と一緒になり、避難・消火・伝達などの訓練を、消防署の指導のもと

とに実施し、万一の火災に備えています。

しかし、災害はいつどのような形で発生するかわかりません。特に勤務職員の少ない夜間及び土・日・祝祭日などの対策に苦慮しております。そこで、近隣地区(下前田地区)の方々に、非常事態を一刻も早く知らせ、協力を得るよう「サイレン」を屋上に取り付けたり、ボタン一つで消防署や主な職員に火災を知らせる「非常通報装置」もこのたび設置いたしました。

高齢者で、しかも活動力が弱くなっている利用者の方々の安全を確保するために、今後施設、設備の充実を図るとともに、事故の防止に皆で努力いたします。

(事務長)

## 職員員寄稿①

森泉荘勤務五年目を

むかえて

土佐 恵子

森泉荘の職員となり五年目をむかえ、いくらか気持ちにも余裕がもてるようになったこの頃です。仕事を覚え、慣れることに精一杯で自己中心の生活をし、感情を仕事にまで持ち込んでしまった時が多々あったと思い、反省しています。五年前に比べ入所者と話をする時のキコチなさはなくなりましたが、調理員は他の職員に比べ入所者と直接接する機会も少ないので、いまだに名前と顔が一致するのは三分の程度です。

自分のことだけで他の職種には目を向けることがなく五年目をむかえ、自分の仕事だけでなく、同じ職場に働く仲間として、少しでも他の職種にも目をむけて、自分なりに少しでも理解したいし、また自分の仕事も理解してほしい。

私自身、二十代から五十代と幅広い年代の方々の間で仕事をすることは、今まで知らなかった、たくさんのご《関心のこと》など《を吸収することができました。

若いから許されることではないのですが、私はいままで、自分の権利ばかりを主張し義務を果たしていなかっただけに思い、三十をいくらか過ぎた現在からでも、権利を主張する前に、義務を果たさなければとおもっています。

(厨房職員)

森泉荘、

秋のドライブに参加して

大野台ハイランドにて  
キラタンポを楽しむ

金 美香

十月六日は、秋のドライブで

五月の観桜会、七月の阿仁町  
葛蒲園見学、そして今回は、大  
野台ハイランドでの切りタンポ  
会です。

森泉荘利用者五十名中、参加  
者は昨年より四名少ない十六名  
自力で歩行の出来る方は五名。  
十一名は車椅子を利用。職員は  
施設長他、事務職員、厨房職員、  
管理職員、看護婦、介護職員等  
十二名の付き添いです。

十時に森泉荘を出発。バスは  
浦田を通り、根小屋経由。黄金  
一色になった農道の風景を見な

から「今年も豊作でよかったなア  
と老人達の声が出てきます。ま  
たコンバインで稲刈りしている  
のを見て、「早いものだ」とビッ  
クリしている老人もいました。

施設長から合川町の工業団地  
や土地の名前の説明を聞きなが  
ら、十一時に大野台ハイランド  
に到着。さっそく男子職員はト  
イレの設置。他職員は車椅子を  
軽トラックからおろし、床面に  
坐ることの出来ない利用者は長  
テールについてもらう。その  
他の人は、シートの上に皆で輪  
になり、タンポが煮えるまで、  
シートに坐ったまま輪投げゲー  
ムを楽しみました。一点をタン

ポの一杯としてゲームを進める  
と、利用者も職員も大はりきり。  
一点しか取れず「一杯しか食べ  
られない」と泣きべそ人もい  
たり、五、六点も取り「食べる  
ぞー」と意気込んでいる職員も  
いたり……。笑い顔も皆生き  
生きしています。

そろそろタンポも食べ頃、皆  
おいしそうに食べています。普  
段あまり食べない三浦イトさん  
が、一番最初におかわりをした  
のにはビックリ。次々と十六人  
全員がおかわりをしました。や  
はり、野外で食べるタンポは格  
別おいしいのです。少し肌寒かっ  
たのも、タンポを食べると、皆  
のほっぺたも赤く染まってきました。

休憩後、車椅子の利用者数名  
を職員がマンツーマンで散歩が  
てら、近くの森林博物館へ行き  
ました。あいにく中へは入れま  
せんでしたが、博物館の外にあ  
る足踏み式の脱穀機や、千扱

(千扱せんかく)、馬ソリの道具を見  
て、「昔は皆これでやったもの  
だ」と山田徳治さんは、しみじ  
みと話して教えてくれました。

そろそろ帰りの時間になり集  
合。帰りは、合川町の分譲団地

の川井を通り、本城から米内沢  
へと進む。

車中では、今回初めての参加  
になった新林キヌさんが「脳卒  
中になって八年、どこにも行っ  
たことがなかったのに、今日は  
とてもうれしい」と、率先して  
一曲歌ってくれました。それに  
つられて、相馬ノヨさんも「こ  
の年になって、いいところにつ  
れてきてもらって」と手を合わ  
せながら歌ってくれる。次は新  
屋イクさんと、車中は盛り上がっ  
た。

四時間のドライブも、三千四  
名が待つ我が家に到着すると同  
時に雨が降ってきました。留守  
をしていた利用者には「とつても  
よかった、来年は行こう」と話  
している小笠原ミサさん。皆事  
故もなく無事帰荘でき、また、  
施設内では見ることのできない  
生き生きした表情に触れること  
ができて、よかったと思いまし  
た。

これから木々も色付き長い冬  
になります。皆と一緒に元気に  
冬を乗り越え、一人でも多くバツ  
ケの花咲く春に向かって……。  
そしてまたドライブに、と祈ら  
ずには、いられません。

## サマーシヨート ボランテイヤの反省

柴森 葉子

八月三日から、六日までこの森泉荘にお世話になったのですが、教えられることが山ほどありました。私は看護科なので、授業で習ったことを、実際に行なってみたいと思い、今回のボランテイヤに参加しました。が、授業では言葉として覚えるだけなので、実際に介助などをしてみると、(恥かしい話ですが)ほとんど役に立っていません。施設で働く人方も、最初のうちはとまどっていたでしょう。やはり、慣れるしかないのだなと思えました。

初日は、午後から実践活動をしたので、それほど長い時間働いていたわけではないのですが、日頃の運動不足と緊張のため、夕食の介助後はドッと疲れが出てしまいました。一番大変だったのが、何と言っても食事介助。一回に与える量やタイミングなど、看護実習でやった時とは全く違っていました。授業では友達とやるので、気楽です。でも、ここでは緊張と不安で、手は思いどおりに動かない。うまく口の中に入れてやることのできない、どんな言葉をかければいいのかわからない、というような感じでした。それなのに時間は過ぎていきます。あせってしまいました。それと、ちょっとだけですが、食べてもらえない時、いらついてしまいました。ムリのないことだとはわかって

いるのですが・・・次の日からは、考え込んだりしないよう心がけたので、思い切った行動ができました。人見知りの激しい(?)私が、居室に入って行って、会話が出来るようになったのには、自分でも驚いています。食事の介助も、(相手が変わったこともありませんが)まだきこちなさはあるものの、初日よりずっとスムーズに出来たと思っています。また、車椅子の操作も、慣れるまでは大変でしたが、何とかベツトにぶついたりしないで行なえるようになりました。

実践活動のおむつ交換の時は、おじいちゃん、おばあちゃんかどういいう気持ちでおむつを交換してもらっているのかを思うと、かわいそうでした。私が蒲団カバーを取り替えるためにそばに行くと、おむつ交換をするのだと思ひ蒲団を離さない人や、涙を浮かべる人がいました。みなさん申し訳ないというような表情をしていました。導尿を行なっている人もいるように考えさせられました。これからは、病院の方も老人患者が多くなっていくと思います。こ

で見、考えたことを忘れずに、職に就いた時に生かせたらな、と思えます。

また、褥瘡の手当を見せてもらったのですが、その大きさと深さには驚きました。ビデオで見たことはありますが、それ以上にひどかったです。看護婦さんの話がとても参考になりました。思わず「痛いだろうナ」などと、当り前のことをつぶやいていたのですが、処置は素早く行なわなければならないので看護婦さんも大変だと思います。

正直言って、今回のボランテイヤでは考えさせられました。将来のことについては、看護婦になったとして、やっていけるかどうか不安です。でも、実践したことをまた行なう時があると思うので、寮母さんや職員の方の動きをしっかりと覚えておきたいです。

最後になりましたが・・・充実した四日間を過ごさせてくださいました。いろいろ教えてくれたおじいちゃん、おばあちゃん、そしてみなさん、とてもうれしかったです。ありがとうございました。

(大館桂高等学校看護科二年)

# ◎サマーシヨートボランティアについて

サマーシヨートボランティアは、秋田県社会福祉協議会・郡社会福祉協議会が主体となり、秋田県と秋田県教育委員会が後援して行なわれるものです。

その主旨は、「夏休みを利用して未体験の世界へボランティアとして挑戦し、参加者が生きる尊さや、自分自身の生き方を考える福祉の芽を育む機会を作ること」(昭和六十二年度サマーシヨートボランティア計画実施要綱)をねらいとしてなっています。対象は原則として高校生です。本年度は全県、五二施設で実施、二二六名が参加しています。施設も特養のみならず児童・

心身障害児者等の施設など、県内すべての施設が対象となっております。

当森泉荘へは、八月三日から六日までの四日間、女子高校生が泊まりがけでボランティアとして来荘してくださいました。鷹巣高校の松橋美香子さん、鷹巣農林高校の中島礼子さん、大川和美さん、大館桂高校の柴森葉子さんの四名です。

お年寄りの話し合い手になったり、介助したり・頑張ってくれました。四名の中から前ペーシに柴森さんの反省を掲載させていただきます。

(生活指導員：松橋)

## 『森泉荘日記』

《七月 七日》七 夕

四四名参加。短冊を飾り、七夕の由来を話す。願い事は健康に関するものが多かった。

《七月二〇日》葛浦園児学

雨のため車中より見学。代わりに阿仁町打当温泉まで

ドライブ。一三名参加。

《七月二八日》誕生会

《八月 三日》サマーシヨートボランティア(〜6日まで)鷹巣高、鷹巣農林高、大館桂高の女生徒四名。宿泊しながら頑張る。

《八月 四日》介護講習会

森吉町前田婦人会二三名。デイ・サービスルームで実

施。

《八月二二日》倉庫省開始

本日の六名をかきわりに一七日までに一九名帰省。最長一五日間。

《八月一八日》盆供養

前田のお寺の住職さんが来荘し、談話室にて読経及び講話。参加者一〇名。参加できない人の為に全館放送する。

《八月二五日》誕生会

スイカ割り実施。大相撲名古屋場所星取り大会表彰。優勝、国塚 半左衛門さん。

《八月二八日》納涼踊り大会

「森吉小唄、秋田節」など。夕方予定の花火は延期。

《九月 四日》敬老式

七〇歳以上の入所者四三名。最高齢九〇歳。民謡の慰問。あわせて花火大会実施。

《九月二二日》誕生会

前田保育園児の慰問あり。可愛い遊戯に目をほそめる。《一〇月 六日》大野台ハイランド。ドライブ。一六名参加。きりたんぽに舌つづみをうちゲームを楽しむ。帰りのバスでは歌もとびだす。

《一〇月 七日》十五夜

ホールにて団子を作り祭壇に飾る。夕方多くの人がおまいりした。

《一〇月一三日》避難訓練

伝達・避難誘導・救護・消火栓操作・消火器操作の各訓練。屋上サイレン作動・通報装置による消防署・職員への通報訓練。

《一〇月三〇日》誕生会

前田小学校一年生三〇名の慰問。遊戯、歌、楽器演奏など披露。

《十一月 一日》視察研修

秋田市の特別養護老人ホーム光峰苑職員五名来荘。

《十一月七日》誕生会

《十一月八日》鍋料理  
本年度初めての鍋料理はカキ鍋。ホールで八つの鍋をかこみアツアツをいただく。(三月まで月一回予定)

《十一月二〇日》第二一回ゲーム大会開催

参加四五名(うち二名短期入所者)。パン食い競争、アメ食い競争が人気。

《十一月二五日》踊りの慰問

鷹巣町、千川流の皆さんの慰問有り。利用者、職員一同おおいに楽しむ。

厚く御礼申し上げます。

昭和六二年七月～十一月

奉仕・慰問

随時

随時 藤内 通子

金 洋子他

一月五日 千川流・踊り

善意

- ★ 三浦 鉄治
- ★ 米内沢ロータリークラブ
- ★ 菊地 茂雄
- ★ 藤島 仁郎
- ★ 志渡 竹夫
- ★ 佐藤 ツメ
- ★ 清水 俊治
- ★ 前田 婦人会

- ★ 戸嶋 美弥子
- ★ 森吉中学校 二年生
- ★ 秋田県 看護協会
- ★ 日本たばこ産業株式会社
- ★ 森吉町商工会婦人部
- ★ 柴田 淳蔵
- ★ 池田 豊治
- ★ 秋元 ミワ
- ★ 秋元 政之助
- ★ 大谷 政蔵
- ★ 藤原 ミネ
- ★ 袴田 タノ
- ★ 佐藤アキエ(マツサージ)
- ★ 本間 節子

敬称は略させていただきました。

# 正月の帰省について

12月にはいり、正月帰省のことが話題にのぼるようになりました。この「森泉荘だより」とともに、「帰省確認葉書」を同封しております。お手数でも12月10日まで必要事項をご記入のうえ、森泉荘までご返送ください。

正月期間中に都合の悪い方は期間外でも施設としては対応できますので、ご家庭でご家族と過ごされる時間を持っていただきたいものだと考えております。

葉書の書き方ですが、午前中でしたら昼食前というようにお書きください。

帰省・帰荘にあたってはできるだけ、午前9時から午後5時30分までの間においでください。どうしてもこれ以外の時間になる場合は、葉書の「備考」欄に書くか電話でご連絡ください。

☎ 0186-75-3406

## 行事予定

- 二月 年忘れ大会・誕生会
- 餅つき大会、正月帰省
- 一月 新年挨拶会、誕生会
- 相撲見取り大会、
- 二月 節分・豆まき
- 誕生大会
- 三月 雛祭り、誕生会
- 第一二回ゲーム大会

## 編集後記

- ▼第一号発行にあたって、編集委員も三名になりました。ページ数も二ページ増えました。
- ▼少しでも森泉荘の生活を解っていただけばさいわいです。
- ▼ご家族の面会のおり職員ともお話し下さい。体調、現在の生活の状況、その他何でもお尋ね下さい。職員の方でもお話ししたい事やお尋ねしたい事があるときもあります。
- ▼電話番号の変更、住所の変更または長期の御不在などございましたらすみやかにご連絡ください。